

教育哲学会

第56回大会 プログラム

2013年10月12日(土)・13日(日)

神戸親和女子大学

大会日程

第1日 10月12日(土)	第2日 10月13日(日)
9:30 受付 (1号館1階玄関ホール)	9:00 受付 (1号館1階玄関ホール)
10:00~12:30 一般研究発表 (1号館3階4階)	9:30~12:00 一般研究発表 (1号館3階4階)
12:30~13:30 昼食・休憩 全国編集委員会 (1号館2階1演9教室) 研究討議打ち合わせ (1号館2階1演8教室)	12:00~13:00 昼食・休憩 課題研究打ち合わせ (1号館2階1演8教室)
13:30~16:30 研究討議 (4号館2階421教室)	13:00~15:45 課題研究 (4号館2階421教室)
16:45~17:45 総会 (4号館2階421教室)	16:00~18:00 ラウンドテーブル (1号館3階4階)
18:00~20:00 懇親会 (学生会館2階食堂)	

大会前日

10月11日(金)

16:00~18:30 全国理事会 (ホテル北野プラザ六甲荘 会議室)

参加要項

- 受付 1号館1階ロビー
- 大会参加費 3,000円(学生2,000円)
- 懇親会費 5,000円(学生3,000円)
- 一般研究発表 発表20分/質疑応答5分

※万一発表を取り止める場合、発表者は速やかに大会準備委員会にご連絡ください。なお、欠席の場合、発表時間の繰上げは行いません。

※大学近辺には飲食店が少ないため、昼食は学生会館食堂をご利用ください。
※学内に十分な駐車スペースがないため、公共交通機関をご利用ください。

第1部会

1号館3階133教室

司会：林 泰成(上越教育大学)、古屋 恵太(東京学芸大学)

- 10:00 20世紀初頭のアメリカ道徳教育におけるcharacter概念の構造
宮本 浩紀(早稲田大学大学院・院 生)
- 10:25 Alexander Meiklejohnの大学教育論における「コミュニティ」概念の検討
間 篠 剛 留(慶應義塾大学大学院・院 生)
- 10:50 L.シュトラウスのリベラル・エデュケーション論
ー「自然」概念に着目してー
志 田 絵里子(東京大学大学院・院 生)
- 11:15 ロナルド・ドゥウォーキンンの平等論についての一考察2
鵜 海 未祐子(専 修 大 学・非常勤)
- 11:40 ポピュリズムは教育の敵か?
市 川 秀 之(名 城 大 学・非常勤)
- 12:05 全体討議(～12:30)

第2部会

1号館3階134教室

司会：綾 井 桜 子(十文字学園女子大学)、坂 倉 裕 治(早稲田大学)

- 10:00 『エミール』における実例をめぐって
佐 藤 安 功(仙 台 高 等 専 門 学 校)
- 10:25 デュルケムの道徳教育論
ー道徳の科学による意志の自律に注目してー
水 谷 友 香(京 都 大 学 大 学 院・院 生)
- 10:50 教育に主題化できない「死」の積極的意味
ーレヴィナス思想における他者性を手がかりにしてー
福 若 眞 人(京 都 大 学 大 学 院・院 生)
- 11:15 死者の記憶から立ち上がる倫理と教育
ーリカールの記憶に関する論究を手がかりにー
朝 岡 翔(京 都 大 学 大 学 院・院 生)
- 11:40 映画と思考可能性
ーシェフェールの観客論を中心にー
金 鍾 九(東 京 大 学 大 学 院・院 生)
- 12:05 全体討議(～12:30)

第3部会

1号館4階143教室

司会：鳶野克己(立命館大学)、毛利猛(香川大学)

- 10:00 一人遊びの本質分析
- 実在感を巡る心理学・現象学的アプローチ -
崎浜 聡(大阪大学大学院・院 生)
- 10:25 遊びと超越に関する一考察
- E.H.エリクソンの理論に基づいて -
戸来知子(京都精華大学・非常勤)
- 10:50 W.ジェイムズ教育論における「関心」と「注意」
岸本智典(慶應義塾大学大学院・院 生)
- 11:15 S.グリーンブラット「Self-Fashioning」研究の検討
- ミシェル・フーコー「生存の美学」との関係から -
蒲生諒太(京都大学大学院・院 生)
- 11:40 到達目標型音楽科カリキュラムにおける「美的経験」の位置と意味
中居舞子(広島大学大学院・院 生)
- 12:05 全体討議(～12:30)

12:30～13:30 昼食・休憩
全国編集委員会 (1号館2階1演9教室)
研究討議打ち合わせ (1号館2階1演8教室)

13:30～16:30 研究討議（開催校企画） (4号館2階421教室)

「教えること」と「学ぶこと」

－教育的関係の再構築－

提案者：今井康雄（日本女子大学）
鈴木晶子（京都大学）
松下良平（金沢大学）
司会：坂越正樹（広島大学）
森川直（神戸親和女子大学）

16:45～17:45 総会 (4号館2階421教室)

18:00～20:00 懇親会 (学生会館食堂)

第1部会

1号館3階133教室

司会：上野正道(大東文化大学)、野平慎二(富山大学)

- 9:30 「反省的实践」論の構想に関する思想的背景
 -J.デューイの思想との関連に着目して-
 杉原央樹(早稲田大学大学院・院 生)
- 9:55 ノディングズによる平和教育
 -愛国心を観点として-
 伊藤博美(名古屋経済大学)
- 10:20 H.アレントにおける「世界疎外」と教育の危機
 田中智代子(東京大学大学院・院 生)
- 10:45 H.アレントにおける「哲学」と「思考」
 -ハイデガー解釈に着目して-
 村松 灯(東京大学大学院・院 生)
- 11:10 ハイデガーの「世界内存在」論における知ることの構造
 -もの・他者・自己の存在論的な連関に着目して-
 松橋俊輔(東京大学大学院・院 生)
- 11:35 全体討議(～12:00)

第2部会

1号館3階134教室

司会：井谷伸彦(武庫川女子大学)、平井悠介(鎌倉女子大学)

- 9:30 ボルノーにおける言語と教育の関係性をめぐる考察
 -言語の意義とその教育的役割について-
 菅沼静香(早稲田大学大学院・院 生)
- 9:55 コミュニケーション的行動能力を育成する方法について
 丸橋静香(島根大学)
- 10:20 対話の論理と遡及的抽象
 -レオナルド・ネルソンのソクラテスの対話-
 太田 明(玉川大学)
- 10:45 ハンス・リップス解釈学における知識伝達と間主観性に関する一考察
 田中潤一(長岡技術科学大学)
- 11:10 両義的であることをめぐって
 -寺山修司の「問いかけ」にみる教育的意味の考察-
 上坂保仁(常葉大学)
- 11:35 全体討議(～12:00)

第3部会

1号館4階143教室

司会：川村 覚 昭 (大谷大学)、西村 拓 生 (奈良女子大学)

- 9:30 教育における「形成」概念の再検討
 ー京都学派の美学・人間学に着目してー
 神戸 和佳子 (東京大学大学院・院 生)
- 9:55 高坂正顕の教育思想における「主体」概念
 山田 真由美 (慶應義塾大学大学院・院 生)
- 10:20 西谷啓治における人間の「知性」
 ー主体性と虚無ー
 福井 夕希子 (京都大学大学院・院 生)
- 10:45 受苦的存在における生の両義性について
 ー神谷美恵子の〈翻訳的思考〉を手がかりにー
 嵩倉 美 帆 (京都大学大学院・院 生)
- 11:10 道元の仏性論に基づく生の意味
 岩瀬 真寿美 (名古屋産業大学)
- 11:35 全体討議 (～12:00)

第4部会

1号館4階144教室

司会：櫻井 佳 樹 (香川大学)、鈴木 晶 子 (京都大学)

- 9:30 カントにおける「訓練」についての考察
 柳 橋 晃 (東京大学大学院・院 生)
- 9:55 カントにおける「素質」概念の位置づけ
 土屋 創 (東京大学大学院・院 生)
- 10:20 フンボルト陶冶論の「形而上学的」前提
 ー教育制度改革以前の間人間的論考に着目してー
 伊藤 敦 広 (慶應義塾大学大学院・院 生)
- 10:45 Hermuth PlessnerのGrenze概念について
 田口 康 大 (東京大学)
- 11:10 全体討議 (～11:35)

12:00～13:00 昼食・休憩
課題研究打ち合わせ (1号館2階1演8教室)

13:00～15:45 課題研究(学会理事会企画) (4号館2階421教室)

教育実践と教育哲学

ーこれまでの教育哲学、これからの教育学(3)ー

提案者：奥野 佐矢子(下関市立大学)
小野 文生(同志社大学)
下司 晶(日本大学)
司会：田中 智志(東京大学)
早川 操(名古屋大学)

16:00～18:00 ラウンドテーブル

① 教育哲学の<これから> (1号館3階133教室)
ー若手研究者の立場からー

企画者：江口 潔(芝浦工業大学)
松浦 良充(慶應義塾大学)

② 大正新教育思想を読みなおす (1号館3階134教室)
企画者：木下 慎(東京大学大学院・院 生)

③ 教育学におけるフェミニスト・アプローチの豊饒性 (1号館4階142教室)
ーペティ・フリーダン、J・R・マーティン、ペル・フックスの観点ー
企画者：虎岩 朋加(名古屋大学)

④ spiritual exerciseとしての教育哲学の再構築 (1号館4階143教室)
企画者：室井 麗子(岩手大学)

⑤ いま教育哲学者はいかに未来を語るができるか (1号館4階144教室)
ー教育と将来世代への責任ー
企画者：編集委員会(担当：野平 慎二、丸山 恭司)

【第1日目】 13:30～16:30

4号館2階421教室

「教えること」と「学ぶこと」

－教育的関係の再構築－

提案者：今井康雄（日本女子大学）

鈴木晶子（京都大学）

松下良平（金沢大学）

司会：坂越正樹（広島大学）

森川直（神戸親和女子大学）

最近の教育をめぐる論議のなかで、「主体的学び」が強調されている。今日の学校教育に対する疑念や不信がその背景にあるとみられる。これまで自明の前提とみなされてきた「教える」行為と「学ぶ」行為の予定調和の関係が崩れ、親や教師の権威の喪失とともに、「教えること」の優位が失われ、「学ぶこと」の優位という事態が生じている。

子どもの「学び」が強調されるなかで、教師の「教える」ことはいかにして可能か。この点については、近代以降の教育学においてアポリアとして指摘されているところである。主体的学び論や相互主体論へと傾斜するなかで、果たして真の教育的関係が成立しうるのだろうか。

この種のテーマは、過去の大会（第34回大会1991年）においてもとり上げられている。そこでは、教育的関係の構造と問題点について本質論的・原理論的観点から議論が展開されたが、教育の現実のなかでこの問題をいかに解明するかが課題として残された。

そこで今回は、これまで積み重ねられてきた議論を踏まえながら、改めて子どもが主体的に「学ぶ」ために、教師が「教えること」の意味と可能性について近代教育のアポリアを視野に入れながら根本的に問い直し、教育者の責任性の問題も含めて教育的関係のあり方について議論を深めたい。

【第2日目】 13:30～15:45

4号館2階421教室

教育実践と教育哲学

－これまでの教育哲学、これからの教育学(3)－

提案者：奥野 佐矢子(下関市立大学)
小野 文生(同志社大学)
下司 晶(日本大学)

司会：田中 智志(東京大学)
早川 操(名古屋大学)

課題研究の統一テーマ「これまでの教育哲学、これからの教育学」の最終年のテーマとして、教育学における理論／実践の問題を取り上げたい。当初から教員養成制度と向き合わざるをえなかった教育学にとって、理論／実践の問題は避けて通ることのできない研究課題であり続けた。しかも、かぎりなく複雑化し高度化を遂げる現代の社会構造は、この教育学にとっての教育実践の意味を大きく変えつつある。こうした状況を踏まえて、教育学の理論／実践をめぐる新たな論点を提起することもできるが、今回は、これまでの教育哲学研究の歩みを検証するという今期の課題研究の趣旨に即し、本学会内部でのこのテーマにかんする研究蓄積を取り上げることにする。本学会員のなかで永年にわたって教育の理論／実践の問題について研究されてきた会員の仕事をいくつか選び出し、それについて若手研究者の見解・意見を求めるというかたちで、今回のシンポジウムを行いたい。それぞれの研究者によって、想定された教育実践の場や教育研究の方法は多様である。そうした諸業績を比較・対照しつつ考察することは、教育哲学研究のこれまでの歩みと今後の展望を具体的に論じることにつながるであろう。

No.1 ラウンドテーブル1

【第2日目】16:00～18:00
1号館3階133教室教育哲学の〈これから〉
－若手研究者の立場から－

企画者・司会

江口 潔 (芝浦工業大学)、松浦 良充 (慶應義塾大学)

提案者

生澤 繁樹 (上越教育大学)、高宮 正貴 (大阪体育大学)
辻 敦子 (奈良女子大学)、平田 仁胤 (美作大学)

教育哲学会の将来を担う若手研究者を中心に、これからの教育哲学研究や教育哲学会の活動について、忌憚のない意見交換を行いたい。4名の話題提供者からの簡単な問題提起を受けて、参加者とともに自由な討議を展開したい。次のような論点を想定している。

- 自らがとりくんでいる研究課題は、いま、そしてこれからの教育哲学研究の動向のなかでどのような意味をもつのか。
- これからの教育哲学は教育学研究全体の展望のなかでどのような位置にあるのか。
- 教員養成をはじめとして、教育の現実や実践、政策的な動向などの諸課題に対して、教育哲学研究者としてどのようなスタンスをとるのか。
- 教育哲学会の活動(含・機関誌編集)の課題はどこにあり、これからどのように変わってゆけばよいのか。



No.2 ラウンドテーブル2

【第2日目】16:00～18:00
1号館3階134教室

大正新教育思想を読みなおす

企画者

木下 慎 (東京大学大学院・院生)

司会

田中 智志 (東京大学)、橋本 美保 (東京学芸大学)

提案者

遠座 知恵 (東京学芸大学)、木下 慎 (東京大学大学院・院生)
松橋 俊輔 (東京大学大学院・院生)、李 舜志 (東京大学大学院・院生)

本企画は、教育史研究と思想史研究の方法を用いることで、大正新教育研究の新たな可能性を探る

試みである。大正新教育の理論や実践、その社会的・経済的背景については、従来多くの研究がなされてきた。しかし、一口に「新教育」といっても一枚岩ではなく、その実体をなすのは、それぞれの信念に突き動かされた実践家・理論家たちの固有な挑戦である。その営為を、社会的・経済的背景だけから説明することはできない。彼らの教育思想を、今日の教育を問い直すに足る強度で取り出すには、具体的実践との連関のもとで統一的に理解し、改めて語り直さなければならない。本企画は、以上のような視座から、大正新教育研究に新たな視点を提供することを目的とする。具体的には、この時代を生きた教育実践家・理論家の数名に焦点を当て、その実践と思想のありようを報告することとなる。



No.3 ラウンドテーブル3

【第2日目】16:00～18:00
1号館4階142教室

**教育学におけるフェミニスト・アプローチの豊饒性
ーベティ・フリーダン、J・R・マーティン、ベル・フックスの観点ー**

企画者・提案者

虎 岩 朋 加 (名古屋大学)

提 案 者

伊 藤 博 美 (名古屋経済大学)、藤 原 直 子 (椋山女学園大学)

本ラウンドテーブルでは、ベティ・フリーダン、J・R・マーティン、ベル・フックスらの人間形成についての観点をとおして、教育学におけるフェミニスト・アプローチの豊饒性を検討することを目的とする。1960年代後半にアメリカで政治的実践、社会運動の一環として女性学の教室で始まったフェミニスト・ペダゴジーは、教育実践の場において、意義ある貢献を蓄積してきた。しかし、教師の政治的イデオロギーの再生産、セラピー的実践への終始などの観点から多くの批判を受け、高等教育での女性学プログラムの減少に見られるように、現在は制度的には衰退しつつある。このことは、教育実践に対するフェミニスト・アプローチが無意味であることを示すものだろうか。

そこで、上記三者の議論をとりあげ、Feminist Pedagogyを単数形で捉えることなく、複数の可能性をもつものとして探求したい。

教育哲学会におけるフェミニスト教育学の議論の場を構築すべく、本ラウンドテーブルを企画する。



No.4 ラウンドテーブル4

【第2日目】16:00～18:00
1号館4階143教室

spiritual exerciseとしての教育哲学の再構築

企 画 者

室 井 麗 子 (岩 手 大 学)

提 案 者

神 門 し の ぶ (上 智 大 学 ・ 非 常 勤 講 師)、 鈴 木 宏 (武 蔵 丘 短 期 大 学)
馬 上 美 知 (川 村 学 園 女 子 大 学)、 室 井 麗 子 (岩 手 大 学)

コメンテーター

小 野 文 生 (同 志 社 大 学)、 西 平 直 (京 都 大 学)

司 会

加 藤 守 通 (上 智 大 学)

思想史研究者P.アドは、主著Philosophy as a Way of Lifeにおいて、哲学を「spiritual exercise (靈的訓練)」として捉え直しつつ、哲学史・思想史の再構築を試みた。アドによると、そもそも哲学とは、世界に対する私たちの見方を変え、私たちの存在様式そのものを変容するための鍛錬であった。それは、理性によって生命を与えられたコスモスの一部として自らを認めるために個人性を越え、自らに依拠しているものだけに専念し、「自由に生きる」ことを目指すものであった。アドはこのような「生き方としての哲学philosophy as a way of life」を提唱する。さらに、知は、純粹かつ客観的な認識だけではなく、魂と肉体とを包含する存在全体と関わるがゆえに、アドは、哲学をspiritual exerciseとみなすのである。

本ラウンドテーブルでは、そのようなspiritual exerciseとして教育哲学を再構築することを試みる。そうして、教育哲学を論じる土俵そのものを再構築する可能性を探ってみたい。



No.5 ラウンドテーブル5

【第2日目】16:00～18:00

1号館4階144教室

**いま教育哲学者はいかに未来を語ることができるか
—教育と将来世代への責任—**

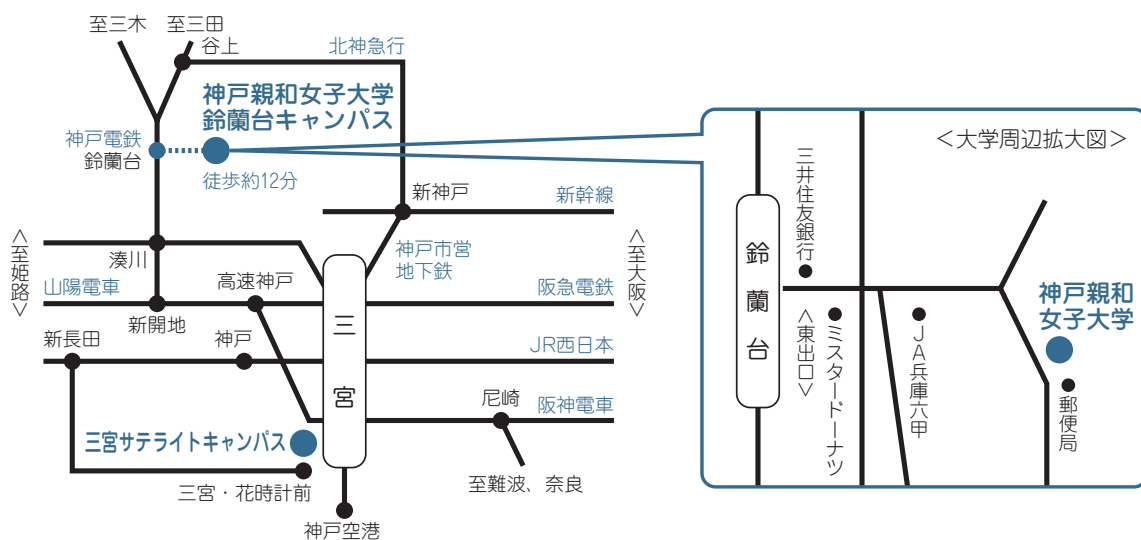
企 画 者

教育哲学会編集委員会

【担当：野平慎二(富山大学)、丸山恭司(広島大学)】

編集委員会では、機関誌第108号の特集テーマを「教育と将来世代への責任—いま教育哲学者はいかに未来を語ることができるか」と設定し、投稿をお願いいたしました。東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故が否応なく私たちに突きつけた内省、自然や科学と人間との関わりに対する再考、現代日本の政治・経済面での閉塞状況等を前に、教育哲学者が語るべきことは何かを、改めて考えたい、というのがテーマ設定の趣旨でした。本ラウンドテーブルでは、このテーマに関心のある会員に集まっていただき、議論を深めたく存じます。まず、本特集に寄稿いただきました会員より、それぞれの観点からお考えを披露いただき、続いて参集くださった方々と議論を深める時間とします。議論の糸口は多様になることが予想されます。しかし問題となっている事柄には、ある種の普遍性が見取れるかもしれません。いずれにせよ、私たちの思考を見つめ直す機会になればと思います。

神戸親和女子大学への交通アクセス



○神戸電鉄鈴蘭台駅までのアクセス

JR新幹線新神戸駅から(その①)

- ・新神戸駅→(約7分)→湊川公園駅(神戸市営地下鉄、西神中央方面行)
* 湊川公園駅を下車して神戸電鉄湊川駅へ徒歩約3分。
- ・湊川駅→(約13分)→鈴蘭台駅(神戸電鉄有馬線)

JR新幹線新神戸駅から(その②)

- ・新神戸駅→(約8分)→谷上駅(北神急行電鉄)
* 谷上駅は北神急行電鉄と神戸電鉄の共用駅。
* 新神戸駅で鈴蘭台駅までの切符を購入してください。
- ・谷上駅→(約12分)→鈴蘭台駅(神戸電鉄、新開地行)

JR三ノ宮駅、阪急三宮駅、阪神三宮駅から

- * JR三ノ宮駅、阪急三宮駅、阪神三宮駅から神戸市営地下鉄三宮駅までは、徒歩約2、3分。
- ・三宮駅→(約5分)→湊川公園駅(神戸市営地下鉄、西神中央方面行)
* 湊川公園駅を下車して神戸電鉄湊川駅へ徒歩約3分。
- ・湊川駅→(約13分)→鈴蘭台駅(神戸電鉄有馬線)

阪急三宮駅、阪神三宮駅から

- * 明石・姫路方面行の電車に乗りますと、8分～10分で神戸高速鉄道新開地駅に着きます。
- ・新開地駅→(約15分)→鈴蘭台駅(神戸電鉄有馬線)

JR神戸駅から

- * JR神戸駅から神戸高速鉄道高速神戸駅までは、地下道を徒歩約5分。
- ・高速神戸駅→(約2分)→新開地駅(神戸高速鉄道)
* 新開地駅を下車して神戸電鉄新開地駅へ徒歩約1分。
* 高速神戸駅で鈴蘭台駅までの切符を購入してください。
- ・新開地駅→(約15分)→鈴蘭台駅(神戸電鉄有馬線)

○神戸電鉄鈴蘭台駅から神戸親和女子大学までのアクセス

鈴蘭台駅東出口より徒歩約12分

バス約3分(鈴蘭台乗車、神戸親和女子大学前降車。1時間に1～2本程度)

タクシー約2分(「親和女子大学西門まで」とおっしゃっていただくと、会場まですぐです。660円)

大学マイクロバス(鈴蘭台駅東出口の指定の場所より1時間に3～4往復運行。)

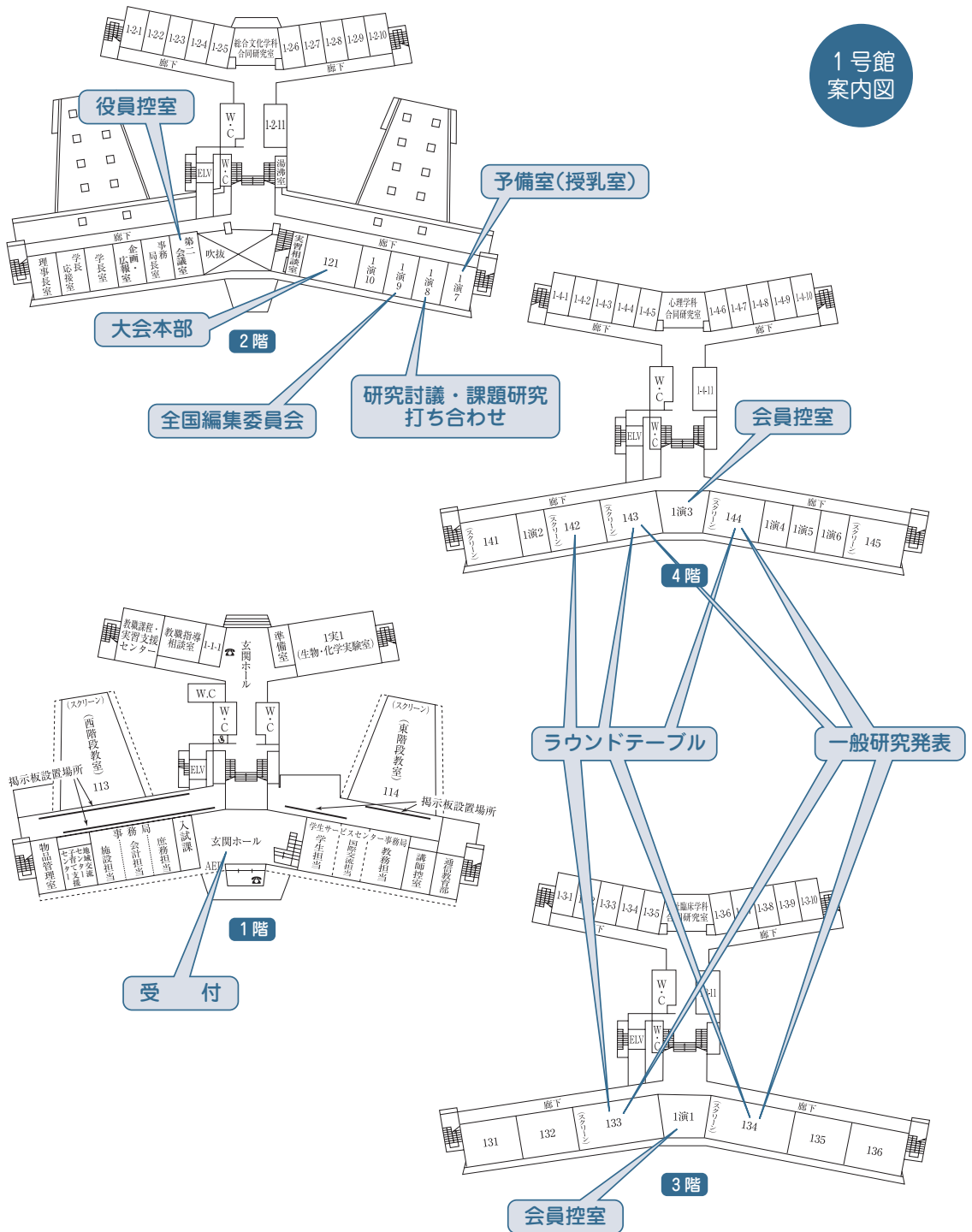
❖ 神戸親和女子大学 大会会場 ❖



- 受付：1号館1階玄関ホール
- 一般研究発表：1号館3階（133教室、134教室）、4階（143教室、144教室）
- 研究討議・課題研究・総会：4号館2階421教室
- ラウンドテーブル：1号館3階（133教室、134教室）、4階（142教室、143教室、144教室）
- 懇親会：学生会館2階食堂
- 全国編集委員会：1号館2階1演9教室
- 研究討議・課題研究打ち合わせ：1号館2階1演8教室
- 役員控室：1号館3階1演1教室、4階1演3教室
- 役員控室：1号館2階第2会議室
- 予備室（授乳室）：1号館2階1演7教室、4号館2階4演1教室
- 大会本部：1号館2階121教室
- 全国理事会：ホテル北野プラザ六甲荘

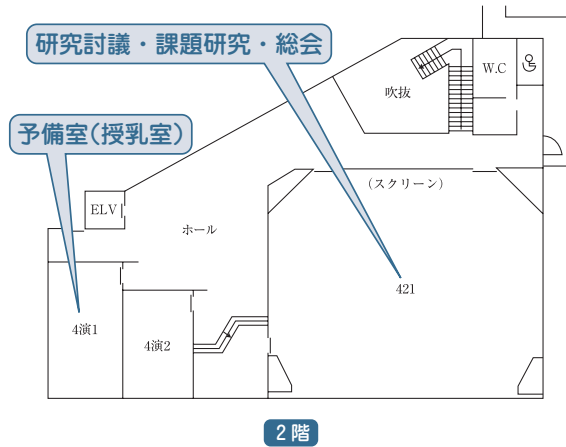
神戸親和女子大学 大会会場

1号館
案内図



※ 神戸親和女子大学 大会会場 ※

4号館
案内図



※ 全国理事会 会場 ※

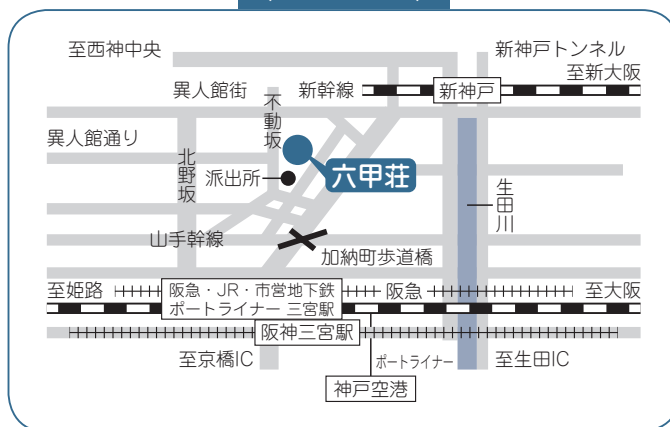
ホテル北野プラザ六甲荘

(公立学校共済組合神戸宿泊所)

〒650-0002 神戸市中央区北野町1-1-14

TEL.078(241)2451

◇ アクセス ◇



※新神戸駅又は三宮から徒歩約10分です。